

平成 30 年 3 月 12 日事務局作成

平成 29 年度第 1 回から第 4 回までの石狩市手話基本条例推進懇話会における主な意見要旨（集約資料版）

第 1 回 テーマ 自由な意見交換（テーマ設定なし）

【手話の理解普及に関して】

- ・ 手話の普及だけでなくろう者の理解の一環として、デフリンピックの普及啓発をしてほしい。
- ・ 医療機関関係者に、ろう者の理解をしてもらうためにリーフレットを配布するなど何かすることはできないか。

【手話条例に関して】

- ・ 北海道内において、手話条例を制定する自治体が増えているので、北海道ろうあ連盟がイニシアチブを取って情報共有や情報交換をしていってはどうか。
- ・ 手話サークル会員にとって、手話条例による変化を実感することができないという声がある。
- ・ ろう者にとっても手話条例ができて生活が変わったという実感はないと聞いており、生活の中で手話が使いやすいと感じるために、何が必要か考えていく必要があるのではないか。

【学校における手話の授業に関して】

- ・ 学校の手話授業に関して、子どもの理解や学習の積み上げができるように、市で教材（テキスト）を作成してはどうか。
- ・ 学校の依頼に応じて、手話授業を実施しているが、授業実施の有無や実施回数によって、子ども達が手話やろう者と触れる機会に差があるのは良いのだろうか。

第 2 回 テーマ 自由な意見交換（テーマ設定なし）

【聞こえない人の日常生活に関して】

- ・ 聞こえない人が手話通訳者の同行なしに、歯医者に行った場合に、医師と

患者のコミュニケーション方法について医師が色々合図する方法を考えてくれて、治療時のコミュニケーションへの状況理解がうまくいっている。このような理解があれば大変助かる。

- ・ 病院に受診した際に聞こえない人が不便を感じないように、小樽市で作成した保険証や受診券に貼るシールがある。石狩市でもこのようなものを作成して欲しい。

※参考 シールの文章

「手招きでお呼び下さい

筆談でお願いします

耳の不自由なものです」

- ・ 電話お願いカードというものもある。『警察』『火事です』『急病です』『緊急避難場所に』『〇〇に電話』とかカードに表記されていて使用するもの
- ・ ろう者自身が（コミュニケーションするための）カードを携帯するのではなく、聞こえない人がコミュニケーションを取り易いように、病院等の受付などに設置しておくことと便利である。しかし、病院等にカードを作成してもらって置くのは難しいと思うので、行政や団体が作成して配付していくことが必要ではないか。
- ・ 病院などの事業所に（コミュニケーションするための）カードを設置しておくことは、障害者差別解消法の合理的配慮にあたるので、そのことを広めていくことが大切である。
- ・ 夜間の時間帯において、119番が必要な緊急時に、石狩市では障がいに関する相談センターへの携帯メール連絡を介して、手話通訳者に連絡してくれる仕組みがあって良い。
- ・ コミュニケーションカードなどは、携帯電話にそのようなカードを取り入れたものを日常生活用具として配付することはできないのだろうか。
- ・ 最近、電光掲示板による情報提供も増えてきていて、手話の認知度を高めるためにそのような広報媒体により、手話による情報提供を使うのも一つの方法ではないか。

【緊急場面における情報保障について】

- ・ 石狩消防署は、消防職員が自主研修で手話を含めた現場対応を目指し、日々訓練をしているという話を聞いている。全国の消防でこのような取り組みをして欲しい。
- ・ 北海道で制定を検討している手話条例をきっかけとして、全道域の警察の人

にろう者や手話への理解が広がってほしい。

- ・ 神奈川県警では、手話も外国語と同様に情報保障の必要性が認識されており、必要な場合には、すぐに手話通訳センターへ連絡を取る体制が取られているという話を研修会における講演で聞いた。

【手話条例ができて思うこと】

- ・ イベントの際は必ず手話通訳者がいるというのが夢である。夢というのは、現状としては、手話通訳者の数が少なくそこまでの対応は難しいと思う。
- ・ 手話サークルという団体の立場で常々団体の存在を活用して、町内会等地域における手話やろう者の理解につながるきっかけとなる活動はできないか考えている。

第3回 テーマ 手話条例の取組みを守っていくために必要なこととは

【手話やろう者の理解を広めるために】

- ・ 石狩市は、手話条例がスタートして4年目になる。感じていることは、子どもたちにとって、最初は聞こえないということについては自分とは関係ないというような感じでしたが、聞こえない人たちが講師として手話出前授業をする中で、2年3年と経過した今、ろう者の事を理解してくれ、身近な存在として気が付いてくれる事が深まっているような感じがしています。気が付きがあれば次に何かを伝えと、身振りや手話に努力するというような対応方法もしてくれとしたいと思います。手話の理解についてはすごく早く進んでいると思います。
- ・ 今年から初めて手話出前講座の講師をしています。出前講座で学校に行った時に子ども達の様子にびっくりしました。なぜかと言うと、私のことを自分の孫のおばあちゃんだということが分かっている、手話で挨拶してくれる様子もあります。だからすごく嬉しく感じております。家に遊びに来たときも、手話を使って挨拶をしてくれます。みんな私のことを知っていて手話で挨拶をしてくれるのでとても嬉しいです。手話の指導についても楽しみながら行っております。今後も続けていき、もっと手話について広めていきたいと思っています。
- ・ 出前講座に行っていて、幼稚園からろうあ者に接していると、触れ合いがすごく何か深くなるような感じがあるのですよね。中学生から接すると、接し方がちょっと引っ込み思案みたいな、何と言うかろうあ者をちょっと違う感じを受けているので、小さい本当に幼稚園とか保育園とかに行って歌でも構わないからろうあ者と触れ合うのを増やしたいなっていう風には感じて

います。

- ・ 通研（北海道手話通訳問題研究会道央支部石狩班）で手話カフェやっているのですが、その手話カフェに来る人が前に手話に触れたことがある人が多い。石狩に手話条例が出来たとうことで手話に新たに触れたいと思う人が少ない。そのような見方でいくと、手話条例は広まっていないのかなと感じます。
- ・ 今、出前講座で小学校、中学校に行っている効果といのは、10年後の石狩の状況を考えたときに手話が分かっている市民が増えているということだと思ふのです。子どもたちに手話についてとか、ろうあ者について教えるのは将来のためという風に感じます。今大人に対して、町内会とかに出向いて行って説明するのが効果があるのかなという風に思ふます。前回の会議の時に見せてもらった意思を伝えるカードとかを使うというのは、病院とかスーパーとかで使っている様子を見て、「ああ、そう、ろうあ者はそういう方法があるのだ」というのを見て、知るといふきっかけになるのかなと思ふました。だからそういうのを使うのを見るといふのもすごく普及の1つだと思ふます。
- ・ 小学校中学校、翔陽高校などは、ある程度手話のことは分かったのではないと思ふます。ただ、普段の通訳業務、通訳の仕事で出ている時に感じることは、特に会社関係がまだまだといふ感じがします。会社の面接で聞こえないとうことで、面接を受ける前から断られる、企業関係の通訳の際もろう者に対して「声出してみろ」とか、理解が無いといふ状況が実際に感じています。そういう大人に対して、会社に対して、社会全体に対しての普及の仕方をどうしたら良いのかといふのを考えていくべきではないか。
- ・ 手話条例の理解を広めるためには、新聞・テレビ等マスコミの力を借りるのも必要ではないか。

【手話に関するまちの環境づくりやPRについて】

- ・ 市役所の中でのPR「手話ができるまち」といふような物があれば、すごいなと思ふますが、まだ無い。石狩市でもお金を掛けず、安くても構わないので何か、市外から来た人に見て訴えられるような、見て分かるような仕組みがあれば良いのではないか。
- ・ 市役所のテレビにアイドラゴン（手話や字幕付きの番組が見られる受信器具）を設置して、日常の中で、市民が手話に触れる機会をつくってはどうか。
- ・ 石狩市は「石狩手話教室」といふPR動画を作成しているのだから、繰り返し映

したらどうだろうか。

- ・ 旗やペナントを作成して、まちの中で「手話のまち」であることをPRしてはどうだろうか。
- ・ 災害時に利用できるバンダナやヘルメットを市で用意しているか。
- ・ 市役所に来た時に、ろうあ者が来たときに集まることができ、動画が見られるような場所、サロンのような物を作ったら良いのではないか。
- ・ ヘルプカードの配付について

第4回 テーマ 手話の理解を広げるための課題等について

【手話に関する関心を広げるための取組みについて】

- ・ 石狩市役所のトイレに掲載している月替りの「ワンポイント手話」について、石狩市の他の関係施設でも掲載をしたらよいのではないだろうか。
- ・ 手話出前授業を実施した学校が作成した、手話に関する記事が掲載された学級新聞について、学校側から提供をいただき手話フェスタで展示したらよいのではないか。
- ・ 手話に関するチラシを作成して、市の広報紙と一緒に配付したらよいのではないか。
- ・ 「皆、手話を覚えろ、覚えろ」ということではなくて、ろう者と直接会って、お互いが触れあう機会をつくっていくことが大切であると思っている。その一つとして、ろうあ協会の活動を増やしていくことも必要と気づいた。
- ・ 小学校の児童が手話サークルの活動の様子を見学に来る機会をつくってはどうか。
- ・ 石狩市で新しい防災ガイドの作成を現在検討しており、防災に関する手話単語を掲載したり、ガイドの内容の一部を手話動画で見ることができるものを作成することで予定している。
- ・ 学校の授業参観日に合わせて手話出前授業を実施してもらおうと、子どもの親御さんにも理解が広まるのではないか。
- ・ ろう協会の立場で商工会議所等に行って、企業で手話出前講座等を実施しないか相談してみてもどうか。

【手話やろう者理解の課題について】

- ・ 新聞報道を通じて石狩は「手話のまち」とか、手話に関する一般的な関心は広がっているが、実際、聞こえない人への合理的配慮は十分ではないので、理解とか協力をしてくれるような方法へ取組んでいかなければいけないと思う。

- ・ 地下鉄の事故があった時などは、聞こえない人に対する状況への情報提供がまだ十分でなく困っている方が多いと思う。
- ・ ろう者が働く職場では、聞こえる人が手話への関心を持ったり、使うことが少ないため、手話への理解を深めることが難しいという経験をしたことがある。ろう者がいる職場では、手話を知らない人が少しでも日常的に手話に触れる環境を作っていくことが必要だと思う。
- ・ 手話を必要としていない大人に対して、事故、災害時などにろう者と一緒になった時に、どのようなことができるかを考えてもらう機会を作っていくことが必要だと思う。
- ・ 石狩湾新港地区は多くの会社があるが、これまで石狩湾新港地区の会社で手話出前講座等を実施した例はない。